

静岡県原子力県民講座（平成 27 年度第 1 回）

質疑応答録

- ・出席者の方々からの質問事項と西本先生からの回答をまとめました。
- ・時間の関係で当日お答えできなかった質問に対しても、後日、回答をいただきました。（回答は、講演テーマに関するものに限りです。）

【「福島浜通りの復興と地域づくり活動」～東日本大震災と原発事故を乗り越えて～】

No.	質問	回答
1	清掃活動に対する誹謗中傷が寄せられたという事ですが、特に原発に反対する団体からの批判活動などがあれば、そのことについて聞かせていただきたいと思えます。	「子供を被曝させていいのか」とか、「子供をそんな行事に参加させていいのか」とか、「線量をきちっと測っているのか」など、いつも同じ内容のメールをいただきました。 事実、線量がスポット的に高いところが国道にもあります。反対派の人たちは国道沿線の全部が高いと思って私とお話しているの、私が、例えば「うちの前の国道は $0.03 \mu\text{Sv/h}$ から $0.05 \mu\text{Sv/h}$ ですよ」って写真を送付しても、信じようとしてくれませんでした。 ただ、「何を言われても子供の安全性だけは私たちはきちんとしておかなきゃいけない」という対応だけは、人一倍尽くしたと思っています。
2	5年たって、今何が必要なのか。国に求めたいこと。たとえば他の県民に求めたいことなど。	例えば「何年後にこんな状況になります」ので生活生計を考えてください。と言う国としての態度が分かる様にしてほしいと思います。
3	「放射能に汚染された土地」という風評被害のある福島での地域づくりの困難さに負けないためのポイントは何か。①故郷愛②情熱③放射能の勉強④夢、希望 他には。	ここの全てだと思います。まずは、その時の地元を知る事がとても大切だと思う。
4	「世界一の廃炉の県」は、何が世界一なのですか。廃炉が成功しなかったらどうするのですか。	私達は、今の日本の技術では廃炉が成功しないとは思いません。必ず成功すると思いい信じて、地元に住んでいます。
5	私は、環境省でH27.3まで廃棄物処理の内11市町村の被災家屋解体の責任者をやっていたのですが、仮置場が確保できない為解体が思う様に進みませんでした。今後静岡ではどの様にすべきと考えますか。アドバイスをお願いします。	毎日の中で事故があったなら、何をすべきかを常に想定して住民と関わる事でしょうか。どんなに国や行政が頑張っても、最後は住民との協力だと思いますので、この関係をしっかり作っておくべきだと思います。

6	「楽しく住みやすい地域社会の実現」について普段からどのような活動をしたらよいでしょうか。	子供の笑顔がどうしたら見られるかを、私は地域づくりをする時には一番に考えます。
7	復興と地域づくり活動で一番苦勞された事あれば教えてください。日本全国からの苦情に対して対応されましたか。	対応してますが、ここに住んでいる理由をはっきり自分なりの言葉で伝えます。
8	昨年10月の国道6号線の中高生参加の清掃活動について、私共の一昨年10月末の福島視察バスの車中でも6～7マイクロシーベルト（年間70ミリシーベルトにもなる）であった。これは労災の白血病認定基準に当たる。子どもの清掃参加にどういう議論があったのか教えてください。	私は、原発問題の有識者ではないので原発に対しての詳しい事は語る事はできませんが、原発事故の時にそこに住んでいたという事は事実です。賛成・反対とはいまだにはっきり答えられませんが、はっきりしている事は事故後も、これからもこの場所住んでいきます。その時々に対抗になったり、賛成になったり、生活の中で考えます。
9	除染廃棄物の一定濃度を超え大臣が指定した物は適切な方法で処理する。具体的に説明してほしいです。	<p>指定廃棄物の処理については、必要に応じて減容化（焼却等）等の中間処理を行い、既存の長期管理施設又は国が設置する長期管理施設に搬入します。保管から収集・運搬、減容化、長期管理までの各工程において、空間放射線量や放射能濃度など、適切なモニタリングを行い、安全管理を徹底して処理を実施します。</p> <p>周辺住民の皆さんが安心して生活していただくために、長期管理施設の敷地境界での追加被ばく線量が年間1ミリシーベルト以下となるよう処理を行います。さらに、定期的に空間線量や放射能濃度を測定し、周辺への影響がないことを確認しています。これらによって、安全に保管されていますが、これは緊急的な措置であり、長期的には自然災害などの心配もあり、できるだけ早期に、より安全な方法で処理することが必要であると考えています。</p> <p>【環境省：放射性物質汚染廃棄物処理情報サイト よくあるご質問 (http://shiteihaiki.env.go.jp/faq/)】</p>
10	自宅周辺の線量が少なくなったので帰宅できました。今後、線量が増加することはないでしょうか。それに対する不安はありませんか。	ありますよ。人間だもの。だってさ、考えてください。1Fにまだ危険な物があるんですよ。私たちは戻っていても、役場の人は帰町宣言して戻っても、みんな借り上げ住宅とか仮設から通っていて、残っている役場の職員は課長クラスのおじいさんたちばかりになっていたり。そういうとき、万が一危険物が、あつてはならないけど、あつたときにはどうするのだろうって。2、3日前もそういう話をして、考えてみてください。国道6号、高速道路は朝晩渋滞ですからね。「そこに何かがあつたとき、住民はどうやって避難するのだろう」「役場の人はどうやって対応するのかね」って、本当に考え

		ますよ。
--	--	------